

学校だより



市川市立平田小学校

いなほ
稲穂

学校教育目標
夢をもち、たくましく生きる
子どもの育成

No.12

R 6年9月27日

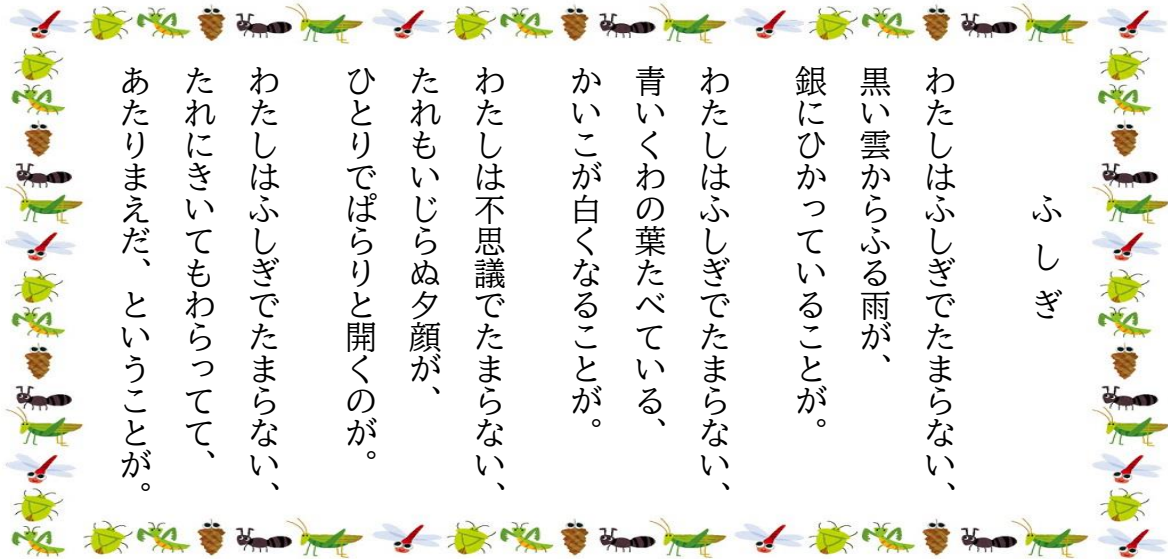
校長 蜂須賀 久幸



～共に学ぶ 共に育つ 共に感動する 共に未来を創る～

当たり前と思って疑わないことの中に隠された、不思議を感じる

ふとしたことから見つけた、金子みすゞさんの『ふしぎ』という下の詩は、初めて目にするものでした。以前6年生の国語の教科書に載っていた『加代の四季』（杉みき子 著）の冬の場面と似ており、“加代は、ふしぎでたまらない。（中略）そのさいしょのひとつぶの雪を、加代は見たい”と綴られる作品全体に、加代の好奇心・温かみのある観察力・純粋な感性を読むことができます。



よく知られる、金子みすゞさんの詩といえば、『わたしと小鳥とすずと』『こだまでしょうか』『大漁』などが挙げられます。そんな中、上の作品は決して難解ではなく、人が当たり前と思って疑わないことに、不思議を感じる鋭い感性、純粋さ、生命への畏怖と温かみを感じます。四連からは、誰もまじめに耳を傾けてくれないもどかしさすら伝わってきます。

せわしない日々の生活、あるいは学習の場や職場において、ややもすると思考を停止させてしまったり言葉にすることをやめてしまったりすることはないでしょうか。「どうせ無理」と諦めたり、わかったつもりになっていたりすることはないでしょうか。

本校では、算数科の学習を通して、「自分で勉強できる力」の育成を目指しています。そのために、授業場面では「対話」を重視して2年目となります。対話の対象は素材であり、友達・先生であり、そして自分自身です。高学年では友達との比較検討後、自分との対話を通して考えを再構築して学びを深めていくことを目標にします。これらの出発点は、当たり前とされそうなことに疑問を感じる感性ともいえます。右から左へ簡単に受け流してしまわずに、「待てよ」「あれっ?」「なぜだろう」「〇〇かも」と心を動かし、疑問の解決に躍起となって取り組む意欲を大切に育みます。

多くの情報が錯綜する現代だからこそ、一旦立ち止まり、不思議を感じる目や耳、心や頭を大事にしたいと思います。前期終了を間近に控えていますが、引き続きご協力をお願いします。

【10月の行事予定】

※丸数字は学年を表します

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
			委員会	缶バッチproject (~9日) SC相談日	前期終了・あゆみ	
6	7	8	9	10	11	12
	授業研究会㉗ まなびくらぶ㉘		定例研 下校13:10	授業研究会㉓㉔ 下校14:30	校外学習① 学習支援実践講座 交流会⑥	PTA資源回収
13	14	15	16	17	18	19
	スポーツの日	まち探検②	クラブ	SC相談日	音楽会リハーサル (全校発表会)	保護者向け音楽会 ひらたっ子まつり
20	21	22	23	24	25	26
	振替休業日		陸上部壮行会	校外学習②	市内陸上競技大会 (予備日10/29)	
27	28	29	30	31	11/1	
	まなびくらぶ③	特学担当研究会 たんぼぼ下校 13:10(B14:30)	委員会	夢の教室⑤		

正義とは？

本棚の積ん読(つんどく)の中の一冊、『同姓同名』(下村敦史 著)を読み終えました。そこには、SNSでの誹謗中傷による負の連鎖についてたくさん触れられています。ネット上のリツイートもあれば、門扉や塀への貼り紙や落書きなど、これでもかというくらいあらゆる手段・言葉を使って見えない相手を攻撃する行為にいたたまらない気持ちになります。それを正義だと信じて疑わないわけです。登場人物の言葉を借りるなら、「一番怖いのは、自分には誹謗中傷していい人間を決める権利がある、と信じている人間たち」は何を言っても耳を貸さないから厄介なのかもしれません。

確かに、自分が許せないと感じた相手には、いとも簡単に暴力的な言葉を使って追い込んでいきます。批判する正当性を盾だと勘違いして、よく知らない相手の人間性を全否定します。その行為は、人を殺すほどの凶悪さを持っています。たった一つの過ちで人格否定され、不特定多数の知らない者から袋叩きです。「許すことを許さない時代」になってしまったのでしょうか。「一緒に責めないと、助長している、加担していると言われて叩かれるから、叩かれたくなくてそのときの生贄を叩いている人も大勢いると思います」というように、まさにいじめの構造です。

糾弾のツイートを「伝染病より早く広範囲に蔓延し、大勢に負の感情を感染させる」と綴っていますが、以前読んだ「天声人語」にも似たような空気が読み取れました。町の議会でスマホゲームをしていた議員がいたことを、見学に来ていた小学生の作文に書かれたことが発覚の原因で、さんざんやり玉に挙げられて辞職したことは多くが知る事実。家族にも脅迫まがいの嫌がらせや誹謗中傷があったと聞きます。ただ、居眠りをする議員がいたことも小学生は指摘していたといえますから、批判電話やメールの主は、切り取った一部だけを聞いて、汚感情を募らせたのだと思います。オリンピック関連の誹謗中傷もまた然り！

攻撃しやすい、叩きやすい相手を標的に、みんなで叩くことを正義と勘違いする雰囲気、学校や教室という小さな社会の中に燻っていることがないようによく見て、正しくする必要があります。当然、私たち教職員や保護者、地域住民がいじめ加害者となることのないように肝に銘じておく必要があります。